

# 平成29年度北海道総合開発委員会の主な御意見

## I 北海道総合計画の推進に係る御意見

### 1 生活・安心

#### (1) 安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの推進

御意見	道の取組
学校が安全を考えるが故に、なかなか子どもの居場所がなく、また家庭でも3世代居住なども減っているので、そうした子ども達の居場所をつくる社会づくりを進めていただきたい。	<b>(放課後児童クラブの整備)</b> 保護者が昼間家庭にいない小学生の子どもに対する、児童館等を活用した適切な遊び・生活の場を提供。

#### (2) 安心して質の高い医療・福祉サービスの強化

御意見	道の取組
医師、看護師などの人材が不足している。ITやICT、IoTを駆使して、包括ケアシステムをしっかりと構築するようなことを考えてほしい。	<b>(医療機関の情報化)</b> 限られた医療資源の効果的な利用に向け、患者情報の共有を図るネットワークの構築、地域の医療機関が都市部の専門医から助言を受けるシステムや、離島などにおける遠隔医療システムの導入など、ICTを活用した取組を支援。

御意見	道の取組
老人介護施設や病院で働く介護職員の給与が非常に安く、地域に定住できない理由の一つとなっている。介護職員が家族で定住できるような所得となるよう、対策を進めていただきたい。	<b>(介護従事者の処遇改善)</b> 介護職員を含む全ての介護従事者の処遇改善策が確実かつ継続的なものとなるよう施策を講じることや、また、その際には、利用者や自治体の負担増を招かないよう、財政措置を講じることによる、引き続き国へ要望。

### 2 経済・産業

#### (1) 農林水産業の持続的な成長

御意見	道の取組
基幹産業を農業とするとこの市町村でも労働力確保に悩まされている。労働力に外国人をもっと活用できるような状況づくりをする必要がある。	<b>(新規就農者の確保等)</b> 新規就農者の確保対策や法人化の促進などによる多様な担い手の育成・確保、ICTの活用による作業省力化・効率化、企業との連携などにより、本道農業の持続的な発展を図る。また、国で検討されている外国人雇用に関する動きなどを注視し、必要に応じて対応を検討。

### 御意見

先進地である日本で農業を学びたいというアジアのリーダーは非常に多く、北海道は食の先進地として、ブランディングのために、こういった方たちの人材育成とネットワークづくりを行うべき。

### 道の取組

**(農業に関する国際的な技術交流)**  
現在JICA北海道などと連携し、本道の技術やノウハウを活かした国際貢献に向けて、アジアを含めた開発途上国の課題やニーズに応じた技術交流を展開。

## (6) 多彩な地域資源を活かした世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進

### 御意見

外国人向け観光ツアーの案内や情報提供について、ツアーデスクの設置やわかりやすい案内など、工夫して対応する必要がある。

### 道の取組

**(外国人観光客への情報提供)**  
外国人観光客に向けて、新千歳空港国際線ターミナルビルにおいて観光案内所を設置するほか、ホームページやSNS、観光パンフレットについても分かりやすい情報提供を図る。

### 御意見

訪日人数がまだ少なく、平均宿泊日数が多く、旅行支出単価の大きい欧米からの誘客を強化すべき。また、欧米からの観光客は、観光のストーリー性や体験性を大事にするので、誘客の工夫が必要。

### 道の取組

**(欧米からの誘客)**  
メディア等の招聘に併せ意見交換会を開催し、欧米から誘客を促進するためのニーズを把握し、施策を展開。

## (7) 良質で安定的な雇用の場づくりと産業人材の育成・確保

### 御意見

全国と比較して長い労働時間などの課題に係る目標に対し、どのように達成していくか、より具体的な方策を考えていただきたい。

### 道の取組

**(働き方改革の推進)**  
昨年10月に働き方改革の推進方策を策定し、取組の方向性を示しており、今後とも、推進方策に基づき、働く意欲や能力のある人々がいきいきと働ける環境づくりを進め、人手不足の解消による企業の持続的発展を図る。また、労働関係法令の周知や労働相談の実施のほか、ほっかいどう働き方改革支援センターにおける企業からの相談対応やアドバイザー派遣などの取組を実施。

### 3 人・地域

#### (1) 協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの再構築

御意見
就職で道内の市役所を受験する場合に魅力が高いのは札幌市で、同じ市役所でも札幌の方に行きたいという全道的なマインドがある。地方で暮らす、田舎で暮らすというマインドづくりのためのソフト事業をより一層手厚くしていくべき。

道の取組
(移住・定住の促進など) ポータルサイトや東京に開設した「北海道ふるさと移住定住推進センター」などを通じて情報発信や相談対応を実施。 都市部の若者が一定期間、地域で滞在し、働きながら学ぶ「ふるさとワーキングホリデー事業」や、ローカルワークの情報を発信。

御意見
地方から札幌への呼び寄せ老人がたくさんいるが、本人達はそれを望んでいるわけではないと思う。生まれ育った地域でちゃんと暮らせる社会づくりをしていただきたい。

道の取組
(「生涯活躍のまち」構想の推進) 国が推進する「中高年齢者が、希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、多世代の地域住民と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくり」を目指す「生涯活躍のまち」構想について、「北海道版「生涯活躍のまち」に関する取組指針」を作成。平成28年度以降、当該指針に基づき、市町村に対する助言、市町村間のネットワークづくりなど、地域への支援を実施。

#### (2) 北海道の未来を拓く人材の育成

御意見
高校に対する外部の専門講師の派遣というのは非常に重要だが、十分に予算化できていないので、検討をしていただきたい。

道の取組
(外部講師の配置) 引く続き、講師招へいのため高校の計画に基づき、新規事業における実践研究を行う研究指定校20校を対象に外部講師による講演会を実施。

## II その他の御意見

### 御意見

2015年に国連で持続可能な開発目標(SDGs)が採択され、世界がその目標達成に向け歩み出している。持続可能ということは過去から言われているが、国連で開発目標を掲げたということもあり、これを念頭に置きながら施策を進めていただきたい。

### 道の取組

SDGsの実現に向け、全庁横断的な体制として北海道SDGs推進本部を設置し(H30年4月)、今年中の新たなビジョンの策定をめざすなど、安心して暮らせる持続可能な地域社会の確立に向けての取組を進める。

### 御意見

何に重点を置いてやっていくか、ということを選択・集中しなければ効果は出てこない。そういった議論をし、提案するのが北海道総合開発委員会だと思うので、年1回ではなく繰り返し開催していただきたい。

### 道の取組

総合計画の推進につながる「重点的なテーマ」を設定し、委員会における議論の一層の活発化を図るとともに、開催回数を増やし、委員会の討議時間の拡大を図る。